

187. Cerebrospinal fluid scintigraphy の経験

—興味ある症例・術後の CSF 動態観察—

青森県立中央病院 放射線科

高橋元一郎 竹川 鉦一 渡辺 定雄

同 脳神経外科

田中 輝彦 高橋 正晃 渡部 実

Cerebrospinal fluid (CSF) scintigraphy (RI cisternography, RI ventriculography) は脳脊髄液の循環動態を経時的に観察でき、我々も各種頭蓋内疾患に施行しているが、それらの中で、本法が診断に寄与した興味ある症例及び術後の CSF scintigraphy に依る術後患者の CSF 動態の観察結果を報告する。

〔方法〕 ^{169}Yb DTPA 0.5~1 mCi (一部 ^{131}I HSA 使用) を腰椎穿刺にて脊髄クモ膜下腔に注入し、ルーチンには 1~2 h, 5 h, 24 h, 48 h 後に、日立製 Scinticamera RC-IC 1205 型で、脊髄部・頭部 (前面、両側面、頭頂面) の Scintigrams を撮像した。

Cisternography を 37 名に 40 回、Ventriculography を 3 名に 4 回、脳膿瘍腔内注入 1 回施行した。

〔対象〕男 24 名、女 17 名 (年令 1~70 才)、計 41 名に 45 回施行した。術前又は手術無しの例 24 件、術後例 16 件、頭部外傷例 5 件である。

〔結果〕1) RI の局所的な異常集積を示すクモ膜嚢腫、Parasagittal region への RI の集積が遅延する上矢状静脈洞血栓症、膿瘍部での RI の吸収障害 (Complete defect) を示す硬膜下膿瘍、RI の Posterior fossa での RI の流れの変化~ defect を示す後頭蓋窩膿瘍等は、本法の新たな診断価値を示すものである。

Ventriculography により、頭蓋咽頭腫・松果体腫瘍による非交通性脳水腫が証明された。Meningeal leukemia は正常像を示した。2) 術後例は、全例が異常な CSF 動態を示した。手術側の Cerebral convexity での Subarachnoid block をほぼ全例に認め、且つ脳室内への RI 貯溜を示す例もあった。又、脳腫瘍や血腫の除去後に生じた死腔内に RI の集積・停滞を来し、CSF の吸収が遅延する例が 3 例あった。左側脳室単独の Unilateral Hydrocephalus も Ventriculography で証明された。3) 頭部外傷例全てが CSF の動態異常を示し、Subarachnoid block、吸収の遅延、脳室内の RI 貯溜、

Porencephaly cyst 等を認めた。4) RI の局所的な異常集積を、クモ膜嚢腫、Porencephaly cyst、術後に生じた死腔等に認めたが、クモ膜嚢腫では RI の停滞は比較的短いが、Porencephaly や術後の死腔では RI が長く停滞し、全体的には吸収の遅延を併せ認めた。

188. 高令者の正常圧水頭症病態の RT Cisternography による検討

東京医科大学 脳外科

新村富士夫 後藤 善和 高梨 邦彦

三輪 哲郎

同 放射線科

村山 弘泰 岡村 二郎

近時脳脊髄液循環動態の検査法として Cisternography の有用性が評価されている。即ち、SAH、髄膜炎、外傷等の後遺症、頭蓋内正中線上及至頭蓋底部脳腫瘍、脳萎縮病変、背髄くも膜下腔閉塞病変の病態把握に必須の手技となっている。1965 年 Hakin & Adams に提唱された Normol Pressure Hydrocephalus に関して多くの報告をみるが、今回高令者の ^{169}Yb DTPA による Cisternography による N・P・H 病態と髄液誘導術との関連につき検討したので報告する。

高令者で SAH、外傷等で最近 1 年間に入院した 16 症例を症候学、Air Study、Cisternography、shunt operation の関連で検討した。内訳は動脈瘤 11 例、AVM 1 例、脳血管障害 2 例、頭部外傷 2 例。発症型は殆んどクモ膜下出血で入院までの期間は発症日より 160 日間に及ぶ。平均年令 63 才、男女比 6:10。

臨床上 N・P・H と診断された 6 例の原因を Ojemann らに従い原因不明な閉塞性交通性水頭症 1 例、明らかな原因による閉塞性交通性水頭症 5 例に分類した。

Air study で側脳室拡大を示した 6 例は Evans index 平均 0.38、callosal angle 120° 以下、クモ膜腔空気貯留の無い例が多い。Cisternography を施行した 11 例中臨床上 N・P・H と診断された 6 例は全て Ventricular reflux は持続性 (24~48 時間以上)、1 例の convexity block、5 例の delayed absorption を認めた。N・P・H を除外された 5 例は ventricular reflux は一過性 (3 h~6 時間) のことが多く吸収障害も軽度であった。手